

琉球大学学術リポジトリ

台風時の行動に関する比較研究 ～沖縄住民を対象として～

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2010-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 完, 東江, 平之, 国吉, 和子, 新里, 里春, 大城, 冨武, 大橋, 英寿, 吉森, 護, 木下, 冨雄, Nakamura, Tamotsu, Agarie, Nariyuki, Kuniyoshi, Kazuko, Shinzato, Rishun, Oshiro, Yoshitake, Ohashi, Hideshi, Yoshimori, Mamoru, Kinoshita, Tomio メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/15507

台風時の行動に関する比較研究

～ 沖縄住民を対象として～ †

中村 完* 東江平之* 国吉和子**
新里里春* 大城宜武*** 大橋英寿****
吉森 護***** 木下富雄*****

I 序

自然災害時の人間の行動に関する総合的な研究の一環として、本研究は特に台風災害時の行動について、主として心理学の立場から解明することを目的とする。具体的には、台風襲来の頻度の高い南西諸島の住民を対象として、つぎの4つの問題を解明しようとするものである。

- (1) 台風に関する情報の内容及びその伝達のメカニズムについて分析する。マスメディアの機能を比較すると同時に、個人的レベルのものを含めて、その他の情報伝達網の実情を把握することを目的とするものである。
- (2) 台風イメージの構造を分析すると同時に、台風の危険度の認知を規定する要因を分析する。とりわけ、台風認知に及ぼす経験的、状況的、

注 * 琉球大学
 ** 沖縄大学
 *** 沖縄キリスト教短大
 **** 東北大学
 ***** 広島大学
 ***** 京都大学

† 本研究は昭和 55 年度 文部省科学研究費補助金（自然災害特別研究課題番号 502028 研究代表者東江平之）の助成を得て行われた。
本調査の実施に当っては沖縄県内各地の多くの方々の協力を得た。記して感謝の意を表す。

及び社会文化的要因の影響を検討する。

- (3) 台風のパラメーターまたは属性によって災害への対応行動がどう変化するかを捉える。とくに、台風の時間的・空間的接近に伴う対応行動の展開について、心理学及び生理学の立場から把握する。
- (4) 地震など、台風以外の自然災害やその他の非常事態における人間の行動と、台風時のその同異を解明し、災害時行動の一般的モデルの可能性を模索する。

本稿では、台風の認知と台風への対応行動という二つの側面について、質問紙法によって捉えたものを主として報告する。台風の認知は、特に台風に関する情報の要求とか、台風情報の流し方についての評価などを通して捉えようと図り、他方台風への対応行動は、台風の来襲に備えて何をするのかとか、台風に対してどのような情緒反応を示すのかなどの設問を通して把握しようとするものである。これらの質問項目に対する回答傾向を、地域差を軸に比較するのが本稿の主な課題である。その他のデモグラフィック変数を軸とした比較や項目間クロス分析、さらに多変量解析による処理結果等は他稿に譲ることとする。

本調査研究の背景について、気象や台風の災害統計を中心に簡単に断っておく必要があると思われる。琉球列島の住民にとって、台風の危険性はけっして過小評価が許されるものではない。昭和26年以降の統計に限ってみても、いくつかの大きな災害の事例をあげることができる。昭和32年9月26日沖縄県全域を暴風雨にまき込んだ台風第14号フェイのもたらした災害の概要は表1の通りである。死者行方不明の合計は131人を数え、建物その他の物的損失も厩大な量に達している。その他、昭和34年10月15～16日の台風18号シャーロットによる死者行方不明は46人に達し、昭和25～26年にあいつぎ来襲した台風5号エルシーと15号ルースの死者行方不明合計も72人に及んだ。⁽¹⁾ 過去20年では10人以上の人命の損失を記録した例はないが、むろん危険そのものが消え去ったわけではない。それは、台風の風圧に耐えられる構造の建築物を選択するなど、住民による適切な対応行動が防災の効果をあげていることを意味しているのかも知

れない。いずれにせよ、表2の通り、過去25年間のデータに基づいて推定すると、毎年29個の台風が発生し、その内7、8個が沖縄県内のどこかに接近していることになる。特に石垣島にはその内56パーセントが接近している。

表1 (台風第14号フェイ) 災害の概要⁽²⁾

被害形態 地域	人			住 家		非 住 家		船 船 (隻)						道 路 破 損 (件)	橋 梁 流 失 (件)
	死 者 (人)	負 傷 者 (人)	行 方 不 明 (人)	全 壊 (戸)	半 壊 (戸)	全 壊 (戸)	半 壊 (戸)	5 吨 以 上			5 吨 未 満				
								沈 没	座 礁	流 失	破 損	流 失	破 損		
沖縄群島	46	59	78	4,572	5,370	4,114	2,618	13	28	6	20	49	83	27	3
宮古群島	6	3	1	2,578	3,571	2,595	1,390	4	4	—	7	—	16	—	—
八重山群島	—	—	—	—	—	18	20	—	—	—	—	—	—	—	—
全 琉 計 (合計)	52	62	79	7,150	8,941	6,727	4,028	17	32	6	27	49	99	27	3

昭和32年9月26日 1957年

表2 沖縄近海に接近した台風の統計⁽³⁾

発生月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
台風発生数	15	7	12	23	29	44	113	142	136	99	66	28	714
沖 繩 県	—	—	—	5	8	14	38	55	45	14	15	1	195
那 覇	—	—	—	3	4	6	18	33	23	10	6	1	104
宮 古 島	—	—	—	3	4	7	19	25	24	9	6	1	97
石 垣 島	—	—	—	3	5	9	24	31	24	7	6	1	110
南大東島	—	—	—	2	5	5	14	28	24	11	12	1	102
与那国島	—	—	—	2	3	8	19	27	23	6	6	—	94
久米島	—	—	—	2	3	6	19	31	19	9	6	1	96

昭和30年～昭和55年 (1955～1980年)

琉球諸島の地理的布置は図1の通りであるが、台風の月別主要経路は図2の通りとなっているため、8月と7月の台風が沖縄県地方を強く襲うことが予想される。9月の台風はその平均的コースが沖縄諸島の東側にそれているため、風速は弱められる条件を備えているのであるが、発生及び接近の件数は双方とも図3にみられる通り7月のそれを上まわっている。また同図と表2によると、7～9月の台風は、発生件数で全体の55パーセント、接近件数で71パーセントを占めていることがわかるが、6月及び10、11月の3月間にも、発生件数で29パーセント、接近件数で22パーセントの台風が観測されている。

これら台風をめぐる経験的要因、台風の季節的パターン、島々の地理的布置条件等が、台風の認知に、あるいは台風への対応行動にどのような影響を与えているのであろうか。本稿は、調査結果の解釈を通じて、これら

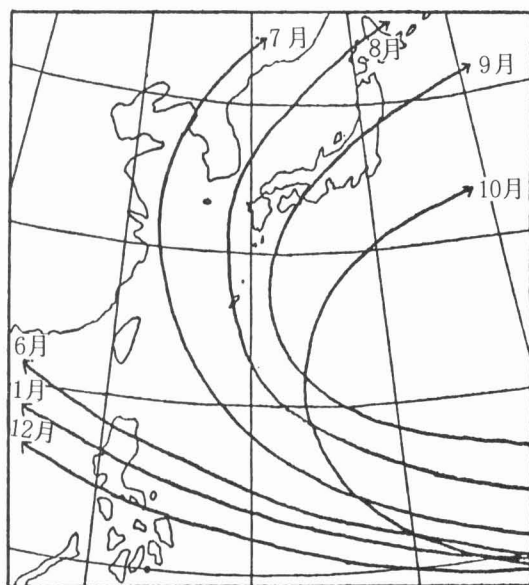


図2 月別主要経路図⁽⁵⁾

の間に答えることを狙うものである。

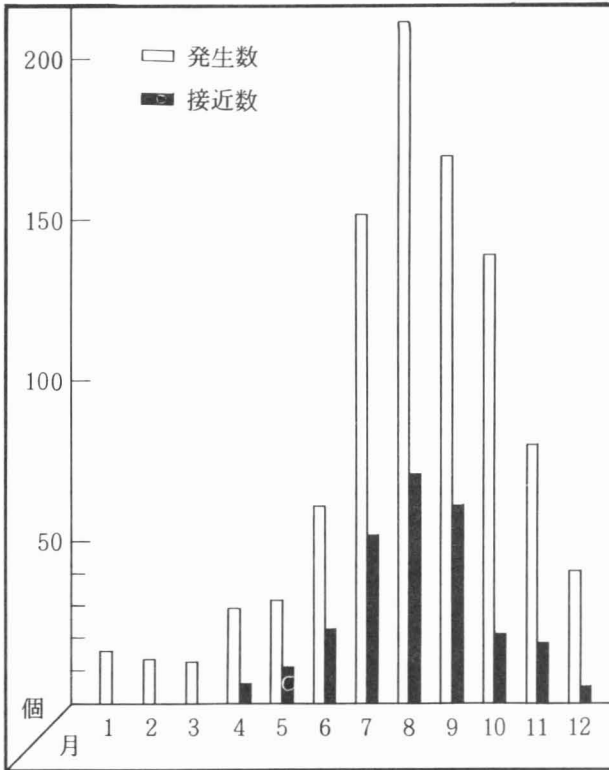


図3 台風の発生数と近海接近数月別表示⁽⁶⁾

II 方法

1. 調査対象

沖縄県内に居住する男女 1,054 人を調査の対象とした。性別、地域別、職業別、学歴別、家屋構造形態別、家族数の詳細は表 3～8 に示す通りである。なお表 3～8 の合計数値に差異が生じているのは、記入漏れ等による欠損データに起因するものである。

表 3 地域別・性別調査対象内訳

性	地域	本島	宮古	八重山	久米島	南大東	大学	合計
男		220	76	97	42	26	37	498
女		210	112	90	24	41	69	546
合計		430	188	187	66	67	106	1,044

表 4 年齢別調査対象内訳

年齢	不明	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才以上	合計
人数	30	103	52	314	468	65	17	1,049
%	3	10	5	30	45	6	2	100

表 5 職業別調査対象内訳

職業	D.K.	農業	漁業	商業	工業	製造業	建設業	サービス業	金融業
人数	35	174	17	85	14	14	67	45	1
%	3	17	2	8	1	1	6	4	0

職業	会社員	軍雇用員	公務員	自由業	主婦	無職	学生	その他	合計
人数	106	7	132	29	171	11	109	32	1,049
%	10	1	13	3	16	1	10	3	100

表 6 学歴別調査対象内訳

学歴	D.K.	小学校 または 新制中学卒	旧制中学 または 新制高校卒	専門学校、 短期大学卒	大学卒以上	合計
人数	78	456	333	107	74	1,049
%	7	44	32	10	7	100

表 7 家屋構造形態別調査対象内訳

家屋構造	かやぶき	木造トタン屋	木造トタン根	木造瓦ぶき	ブロック瓦ぶき	鉄筋コンクリート	その他	合計
人数	4	87	51	149	95	629	34	1,049
%	0	8	5	14	9	60	3	100

表 8 家族数別調査対象内訳

家族数	D. K.	2	3	4	5	6	7人	合計
人数	18	13	53	131	243	243	348	1,049
%	2	1	5	13	23	23	33	100

表 3～8 について少し、補足しておく。

男女の比率はほぼ同等である。宮古、南大東地区では女子が、久米島では男子の比率が高い。大学で女子が多いのは、その中に短大生を含んでいることによる。

年齢別では、40代が多く、ついで30代となっている。20代より20代未満が多いのは、その中に大学、短大生が含まれているためである。

職業別では、農業従事者の比率が高く、ついで主婦、公務員となっている。金融業が1ケースある。

学歴別では、義務教育程度が全体の40%強となり、これに高校卒を含めると70%強となる。

家屋構造形態を見ると、60%が鉄筋コンクリートである。

家族数は、7人以上が全体の33%を占め、5人以上となると、全体の80%をカバーしている。

2. 調査地域

調査地点は沖縄全域にまたがるようにし、本島、宮古、八重山、久米島、

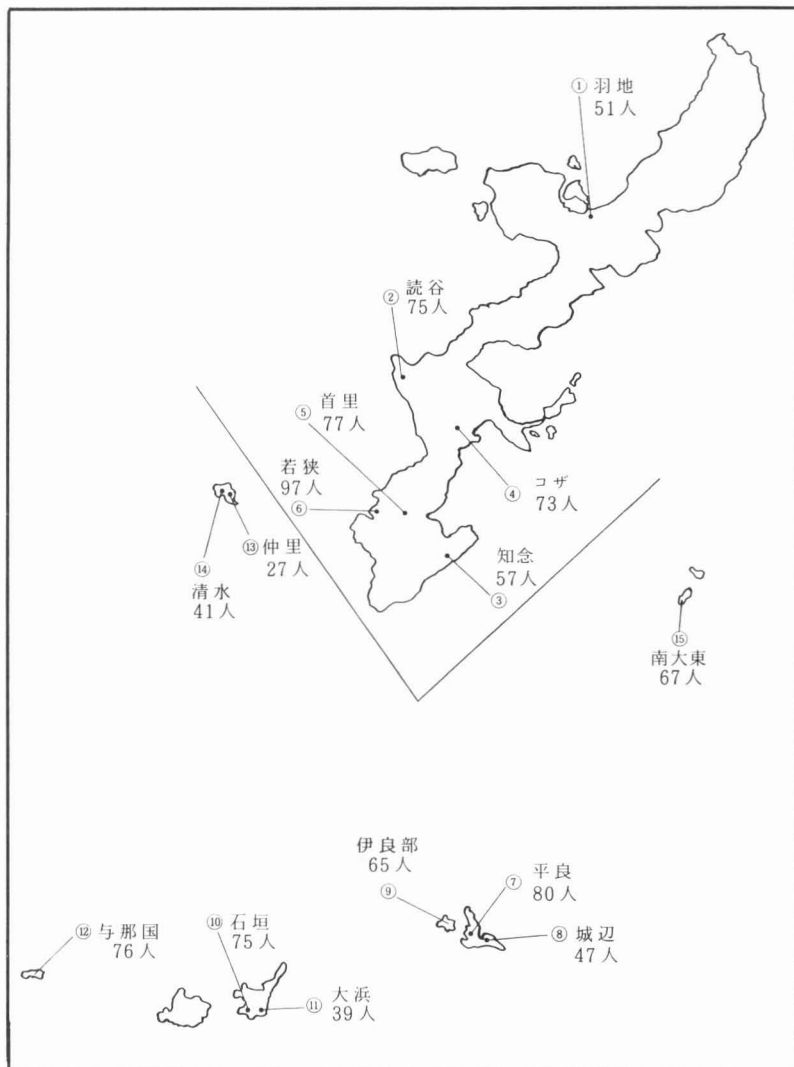


図4 調査地点と調査人員

台風時の行動に関する比較研究（中村・東江・国吉・新里・大城・大橋・吉森・木下）
南大東の15地点とし、そして大学生（短大含む）を加えた。（図4参照）。
調査地点名と調査人数を図4に示した。

図中、①～⑥は本島、⑦～⑨が宮古、⑩～⑫が八重山、⑬～⑭が久米島、そして⑮は南大東島を示す。

3. 調査の実施

調査は、1980年10月～12月に実施された。

4. 調査票の作成

調査票の作成にあたっては次のことが考慮された。

ア. 台風情報を含む、天気予報やマスコミ媒体との接触状況や情報期待に関すること。

イ. 台風接近に備えての諸対応、対策行動

ウ. 台風に対するまたは台風時における感情的反応に関すること。

エ. 台風解除後の行動に関すること。

以上4領域に関する合計23設問項目に、性や年齢等のデモグラフィック要因10項目を加えて「台風対応行動調査」票を作成した。

回答は、あらかじめ用意された選択肢から選ぶもの（1つ、または複数選ぶ）、項目群に順位づけるもの、の方法による。

5. 調査の手続

調査は、各調査地点に位置する小学校在学の5年生の父兄を対象とし、児童を通じて、調査票の配布と回収を行なった。調査票配布の翌日に回収した。

男児には、その父親（不在、または欠損の場合は、祖父、兄など男性の家族）、女兒には、その母親（不在、または欠損の場合は、祖母、姉など女性の家族）の回答を求めた。

6. データの処理

本稿は、台風研究の第1報にあたるため、各設問項目に対する応答分布を単純集計することを中心にした。項目×地域の二重クロス応答分布表を作製し、地域間比較が可能になるようにした。

Ⅲ 結果と考察

1. 情報の受けとめ方

テレビやラジオ、新聞等から流される一般的な天気予報に関しては、一般成人の場合、どの地域でも多くが「気をつけている」(83%~91%)という肯定的回答をしており、天気予報に対して関心のあることを示している。しかし、その度合は南大東地域を除いてどの地域でも比較的 low、「ある程度気をつけている」(45%~62%)という回答に傾いている。

南大東地域では他の地域とはほぼ同様に多くが肯定的回答をしているが、そのなかで「かなり気をつけている」という回答が他の地域よりもやゝ高く、また、「ある程度気をつけている」というのがやゝ低くなっている。天候に対する南大東地域の日頃の注意深さがうかがわれる。

一方、大学生の場合は「気をつけている」という肯定的回答が一般成人よりもかなり低い(54%)。そして、そのほとんどが「ある程度気をつけている」という弱い回答(52%)を示し、「かなり気をつけている」というのはわずか(2%)である。また、「あまり気をつけていない」という大学生の否定的回答(37%)は一般成人(6%~13%)と比べるとかなり高い。大学生の天候への関心の薄さを反映していると思われる。(付録の項目1参照)

台風関係の情報への関心度をみると、どの地域でも一般成人は「関心あり」と回答する者が極めて多い(92%~97%)。そのなかで「かなり関心あり」とする者が久米島地域(76%)をトップにして、八重山地域(69%)、南大東地域(69%)が続いている。また、その他の地域も「かなり関心あり」とする者がかなりの比率(57%~60%)を占めて

おり、一般的に台風関係の情報について関心の高さを見せている。

大学生の場合も「関心あり」の回答者（85%）がかなり多いが、一般成人と比べるとやや低い比率である。しかも、大学生の場合、「かなり関心あり」よりも「やや関心あり」の回答者が多く（62%）、関心度は一般成人ほど高くはない。（項目2参照）

さらに、マス・メディアを通して流される台風情報の必要性についても、一般成人の場合はその地域でも「必要である」（97%～99%）という肯定的回答をしている。どの程度の必要性をのぞむのかについてみると、「絶対に欠かせない」という必要性を強くのぞむ回答者が最も多く（46%～60%）、台風情報についてのマス・メディア依存の強さをうかがわせている。とりわけ、八重山地域（60%）、南大東地域（60%）、本島（56%）が高い比率を示している。

しかしながら、大学生の場合は情報の必要性を認めながら（100%）も、一般成人のように強くのぞむ傾向はかなり薄い。「絶対に欠かせない」という強い回答をした者はわずか25%にとどまっている。大学生の場合、一般成人と比べて台風との直接的な具体的な関わりが薄いと推察される。（項目3参照）

ところで、台風対策をする場合、情報源としては全体的にマス・メディアをあげる者が圧倒的に多い（84%～93%）。そして、風雨等の自然的情報への依存もわずか（8%～15%）ではあるが、マス・メディアに次いで高くなっている。マス・メディア依存の傾向は久米島地域や八重山地域、本島が多少高く、また大学生よりも一般成人が幾分高くなっている。他方、自然的情報依存の傾向は本島や南大東地域、宮古地域が多少高い。一般成人と大学生間では差異はほとんどみられない。（項目6参照）

台風関係の自然的情報への感応度について詳細にみると、一般成人はその地域でも「風の吹きぐあい」（33%～44%）、次いで「空模様」（27%～42%）の回答率が高い。両者を合わせてみていくと、相対的に比率が高いのは南大東地域（82%）と本島（78%）である。

大学生の場合も「風の吹きぐあい」と「空模様」をあげている（87%）

が、とくに「風の吹きぐあい」（60％）が一般成人よりもかなり高くなっている。

その他、「海なり」や「雲ゆき」の回答率も全般的にはわずかではあるが多少地域差がみられ、久米島地域や八重山地域、宮古地域においてやゝ高い傾向をみせている。（項目7参照）

台風関係の情報を入手するためのマス・メディア依存の傾向を細かく分析していくと、一般成人は南大東地域を除き、どの地域もテレビを首位に、次いでラジオ、新聞、電話サービスの順にランクづけをしていることがみとめられる。視覚を通して入手でき、しかも速効性のあるものという点から考えると当然の順位傾向である。

そのなかで、本島や久米島地域では情報源としてテレビを首位に置きながら、ラジオへの依存傾向も比較的高いことがうかがえる。また、本島では新聞の利用者も他地域と比べると幾分多く、情報源がやゝ広範囲にまたがっているといえよう。

ここで特異な傾向を見せているのが南大東地域の場合である。この地域ではラジオへの依存度が他の地域よりかなり高くなっている。また、電話サービスの利用度も他の地域と比べるとかなり高い。そして他の地域で首位に順位づけられているテレビが4位に順位づけられているのが目につく。これは、南大東地域ではテレビが同時放映されておらず、そのため、ラジオや電話サービスが最も有力な情報源として機能していることによると考えられる。

大学生の場合はテレビ、ラジオともに1位に順位づけする傾向を示しており、一般成人がテレビ志向の傾向が強いのにに対し、大学生はテレビ、ラジオ併用の感を見せている。（項目4参照）

ところで、このような台風時における情報源は、地域によっては時間的経過に伴って変化していく傾向がみられる。本島の場合、台風襲来前のテレビ依存の傾向は、暴風雨時においてはテレビ・ラジオ併用の傾向が強い。宮古や久米島地域ではテレビ依存からラジオ依存の傾向へ、大学生の場合はテレビ、ラジオ併用からラジオ依存の傾向へと変化しているのが垣間み

台風時の行動に関する比較研究（中村・東江・国吉・新里・大城・大橋・吉森・木下）

られる。これは暴風圏内に入った時に生ずる停電等によりテレビが利用できなくなるという状況の変化によってトランジスタラジオ等の利用が増してくることによるものと考えられよう。

南大東地域や八重山地域ではこのような時系列的な変化はみられない。しかしながら、南大東地域では暴風圏内に入った時のラジオ依存度が他の地域よりも高く（69%）、またテレビへの依存が0%となっているのが目につく。それは先に述べたように、その地域でのテレビ利用が不可能な状況にあることによる。（項目5参照）

台風関係のニュースの中で最も入手したい情報はと言えば、どの地域もまず「台風の強さや大きさ」（51%～72%）をあげ、その次に「台風の接近の度合」（21%～48%）をあげている。なかでも、前者については南大東地域（72%）、宮古地域（68%）、八重山地域（62%）の順に高く、本島（57%）、久米島（51%）がそれぞれ続く。また、後者については久米島地域（48%）、本島（37%）、八重山地域（35%）、宮古地域（30%）、南大東地域（21%）の順に高い。

とくに久米島地域を除く他の離島地域では両者の回答率の開きが相対的に大きく、また、回答は「台風の強さや大きさ」の方に傾いている。これらの離島地域では台風の襲来頻度が本島や久米島地域よりも高いため、台風時においては「台風の強さや大きさ」についての情報入手の欲求がより高まっていくものと考えられる。

大学生の場合は、台風襲来頻度の比較的少ない本島や久米島地域の一般成人とほぼ同様な傾向をみせている。（項目9参照）

マス・メディアによる台風情報の報道の仕方については、一般成人はその地域も現行の扱い方を「理解しやすく、役立っている」（70%～77%）という積極的な評価をしている。また、「わかりにくい」という消極的な評価をする者も10%～20%程度いる。

大学生の場合も積極的な評価をしている者が多い（59%）が、一般成人と比べると目立って少ない。そして逆に「わかりにくい」という回答（30%）は一般成人よりやや多い傾向にある。これは大学生の台風関係

の情報への関心の希薄さによるものと考えられよう。(項目8参照)

また、テレビや新聞で使われている台風の進路予想図についても一般成人はどの地域でも「役立っている」(72%~100%)という積極的な評価をしている。なかでも、八重山地域や久米島地域は「非常に役立つ」という極めて高い評価を与えている者が多い。

一方、大学生はほとんどが一般成人と同様に「役立つ」という肯定的評価をしている(90%)が、評価の高さは一般成人ほどではない。「非常に役立つ」と回答している大学生(8%)は一般成人(22%~49%)と比べるとはるかに少ない。

さらに、ここで注目すべきことは南大東地域の評価傾向である。進路予想図の提示に対してはこの地域でも肯定的な評価をする者が多い(72%)が、他の地域(97%~100%)と比べると目立って低い比率である。とくに「非常に役立つ」と高く評価する者(22%)は他の地域よりもかなり少ない。「役に立っていない」という消極的な評価はわずかではある(18%)が、他の地域と比べると見過すことのできない比率である。このような傾向がみられるのは、南大東地域では視覚を通しての有力な情報源であるテレビが利用できないこと、また、台風時においては新聞の到着の遅れにより、掲載される進路予想図が情報としての価値を失ってしまうこと等によると考えられる。(項目10参照)

2. 台風と情動

台風接近のニュースに接して、不安を尺度として測定した場合に、その不安度と地域差、および大学生と一般成人との間に差があるかを検討してみると、一般成人は、どの地域でも、「とても不安である」(21%~48%)と「不安」(34%~41%)と答えたものが圧倒的に「やや不安」(13%~29%)と「不安にはならない」(2%~10%)を上まわっていた。

一方、大学生は一般成人とは逆に「やや不安」(33%)と「不安にはならない」(54%)が「とても不安である」(0%)と「不安である」(13

％）を圧倒的に上まわっていた。

地域別では、久米島が「とても不安である」（48％）が他の選択肢よりも多かった。久米島以外の地域では、「不安である」が他の選択肢よりも多く、地域差はあまりみられなかった。

不安の選択肢を二等分して、高不安と低不安に分類して地域間の比較をしてみた（図5）。高不安とは「とても不安である」と「不安である」を合わせたもので、低不安とは「やや不安である」と「不安ではない」の合計値である。高不安の順位は、図5で示した通り、久米島、南大東、八重山、宮古、本島の順であった。離島が上位4位をしめ、本島は最下位であった。

離島が本島よりも高不安者が多い理由は、今回の研究では示されなかったが、今後、デモグラフィックな要因との関係で明らかにしたい。大学生が一般成人とは対照的に低不安者が圧倒的に多い理由の一つは、「台風になれば休講になる」とい

う、いわゆる快感情が不安よりも先行することや、台風による物的被害を直接被ることがほとんどない無責任な存在にあるからであろう。

さて、実際に暴風が吹きあれている最中の、台風への情動反応をみてみよう。（図6）。一般成人では、「とても怖い」や「怖い」が「あまり恐くない」や「恐くない」よりも多かった。これに対し、大学生は、台風接近のニュースに接した時の

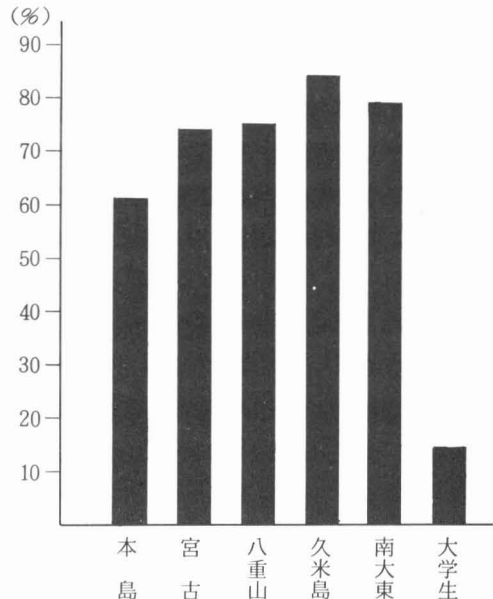


図5 台風接近への不安傾向（地域別）

反応とはやや趣を異にして、「恐くない」(29.9%)が「あまり恐くない」(48.6%)より少なかったが、圧倒的に恐怖心が少ない者が多かった。

地域別では、「とても怖い」を1位(40.3%)に支持した南大東以外は、すべて「怖い」を支持した。「とても怖い」と「怖い」を合わせた高恐怖の順位は、前項の不安と同様に、久米島(78%)、南大東(70%)、八重山(70%)、宮古(65%)、および本島(55%)であった。この順位は、台風接近のニュースに接した時の情動反応とほとんど差がなかった。これらの結果は、台風前の情動反応は、台風の最中でもほとんど変わらないことを示唆しているとい

えよう。一方、大学生では、台風接近のニュースに接した時には「不安にはならない」が55%であったのに対し、暴風中の反応は「まったく恐くない」を30%が支持、「やや不安である」が33%に対し、「あまり恐くない」を49%が支持、台風の最中には、いづらか恐怖心が増大しているようだ。

これを明らかにするため両方の設問の両選択肢を合わせた支持率でみると、台風接近のニュース

への反応は88%が低不安で、暴風の最中の恐怖心では79%が低恐怖を示した。すなわち、台風前よりも暴風中が約10%だけ恐怖心が低い大学生が減少したといえよう。台風接近のニュースにはほとんど反応しない大学生でも、実際の台風下では、わずかではあるが、恐怖心を認めたといえよう。

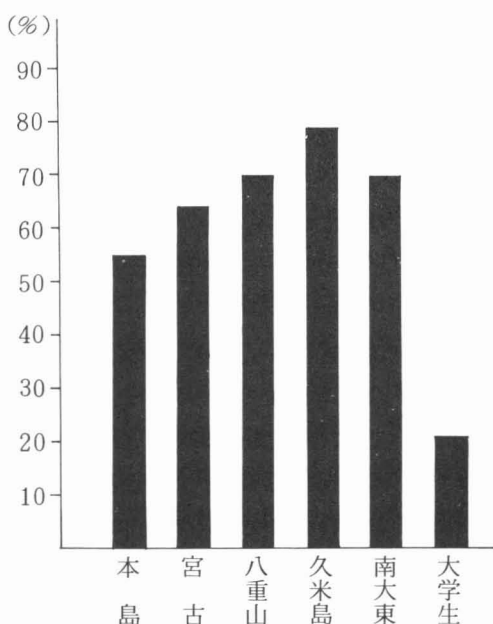


図6 台風来襲時の恐怖反応(地域別)

自然災害は勿論のこと、災害はとかく「備えあれば憂いなし」と云われるが、現代の若者を代表する大学生が、台風前にはほとんど不安を示さず、暴風中もあまり恐怖心を体験しないという事実は、今後の台風対策に一抔の不安を禁じえない。

さて、次に暴風時に予測される自然や住環境などの物的破壊にまつわる危具について、住民は何を最も恐れているであろうか、又それらに地域差があるであろうか。

全地域とも最も恐れていたのは、「落下物の恐れ」であった（37～49%）。次に恐れを示した事象は、「建物等の倒壊のおそれ」であった（22%～52%）。両者に対する恐れは、一般成人と大学生との間に差がみられなかった。

これらの二大恐怖事象に次いで多かったのは、「護岸の欠壊や高潮のおそれ」であった（11%～28%）。「浸水のおそれ」は9%～15%でほとんど問題にならなかったが、「山くずれやがけくずれのおそれ」（1%～6%）や「川の氾濫や橋の欠壊のおそれ」（2%～6%）よりは恐れられていた。

地域別では、宮古（48%）、八重山（49%）に「落下物や飛来物のおそれ」が多く、南大東（37%）が最も少なかった。「建物等の倒壊のおそれ」については、南大東（52%）が最も多く、次に八重山（42%）で、本島（22%）が最も少なかった。商店街の少ない南大東で立看板などの落下・飛来のおそれが他地域よりも少なく、「建物等の倒壊のおそれ」が多いという結果は、当然の帰結といえよう。しかし、宮古・八重山が本島や久米島よりも、落下物や飛来物のおそれが実際に多いか否かについては、今回の分析では明らかにされなかった。

台風の通過後に住民が気になるものとして、全ての地域において、一致して、そして高率的に「停電や断水」の心配を1位にランクづけしていた（南大東52%～宮古78%）。「停電や断水」の懸念を2位にランクしたのは宮古の11%から本島の17%の範囲内で、3位以下のランクづけは無視できる割合であった。すなわち、沖縄県民が、台風後に最も気になることは、「停

電や断水」であったといえよう。日常生活に、又台風の進路の情報キャッチに欠くことのできない電気と、生命の源泉である水の供給が断たれることへの不安は顕著なものがあり特筆に値しよう。電気なしでは機能しない現代文明に、沖縄もドブプリつかっているといえよう。また、年中行事化している断水に慣れっこになっている県民の心の奥底で、計り知れない不安があるのであろうか。第2位（南大東25%～本島35%）または3位（本島22%～八重山27%）にランクされたのは、「諸物価の値上げ」であった。「収穫高の低下（農漁業等）」についての心配は、特定の順位を支持せず2～4位に分散していた。しかし、「収穫高の低下」については、「諸物価の値上げ」に次ぐ上位の順位といえよう。「衛生状況の悪化」も特定の順位が確立されていなかった。地域差も大きかったが、2位から5位の間に順位されていた。「建材の値上げ」は、南大東の3位（22%）と5位（21%）の二層的ランクづけ以外は、全ての地域で5位の順位に集中していた（久米島39%～本島42%）。台風に乗じた「建材の値上げ」については、「諸物価の値上げ」に比べて、実感として体験されていないし懸念もないといえよう。沖縄県民は、農漁業の収穫の低下や衛生状況の悪化、建材の値上がりよりも、直接日常生活に影響する停電や断水と諸物価の高騰を心配しているといえよう。

大学生の台風後の反応は、台風前や台風中の反応と比べて、一般成人とほとんど同様の反応がみられたことは特筆される。すなわち、大学生も一般成人と同様に、「停電や断水」を1位に、「諸物価の値上げ」を2位に、「収穫高の低下」を3位、「衛生状況の悪化」を4位、「建材の値上げ」を5位にランクしていた。

さて地域間の差については、「停電や断水」では、宮古（78%）・八重山（73%）が最も不安が高く、南大東が最も低く（52%）、本島と久米島が両者の中間をなしていた（60%、67%）。この結果は、地域の防風林などの問題、簡易水道の事情、電気や水道への依存度の問題ともからみ、今回のデータからは単純な考察は不可能であった。「諸物価の値上げ」については、本島（35%）と、宮古（32%）・八重山（29%）・久米島（28%）、及び南大東（25%）の三地域への分化がみられた。離島でも、とりわけ海

上輸送に支障のある南大東で、物価に鈍感であることは意外な結果であった。南大東にとっては、他地域よりも「収穫高の低下」に敏感であった。他地域が「収穫高の低下」を1位にする率は本島の9%から久米島の12%に対し、南大東は21%であった。2位のランクづけは、本島の14%～宮古の24%の中間で18%で、ここでも高率な支持がみとめられた。甘蔗を基幹産業とする南大東の地域特性が、ここに示されているといえよう。宮古、八重山そして久米島が南大東の次に、「収穫高の低下」を心配する率が高く、本島は最も低かった。沖縄本島では、産業構造の多様化など直接生産の低下に結びつかないことが、台風後の心配のなさとなっているのであろう。断水で悩む本島では、台風の被害よりも、水資源の確保にさえなる台風の利点、すなわち快感情が、表明されているのかもしれない。「衛生状況の悪化」に対する懸念は南大東が最も低く、他地域はほとんど同じ反応であった。南大東の特異性は、住民の衛生思想の問題とするよりも、前項の台風時の居住地域での心配ごととして上げられた浸水のおそれ、他地域よりも低いことと関連がありそうである。「建材の値上げ」は南大東と他地域に差がみられた。南大東は前述のように、諸物価の値上がりには鈍感である反面、建材の値上がりには他地域よりも敏感であった。南大東においてのみ、台風による建材の便乗値上げがみられるのか、今後の研究課題である。

3. 台風への対応行動

台風時の先導的対応行動として、台風に関する情報の相互の伝達行動が挙げられる。台風時に伝達する情報の連絡先を地域ごとにまとめた付録の項目11から、離島の各地域において情報伝達行動が主として「親戚・知人」（45～54%）に向けられていることがわかる。それに対して、本島では「何処へも連絡をとらない」反応（37%）が多く、大学生では「職場や学校への連絡」（50%）が顕著に高い。ここで、項目11の選択肢を次のように4つのカテゴリーに分類した。すなわち、選択肢1～4を公共的機関とし一つにまとめ、5～6を私的関係者、7を半公共的機関、そして9を独立させ分類し、各地域ごとにそれぞれの平均値及び単独値を示したのが図

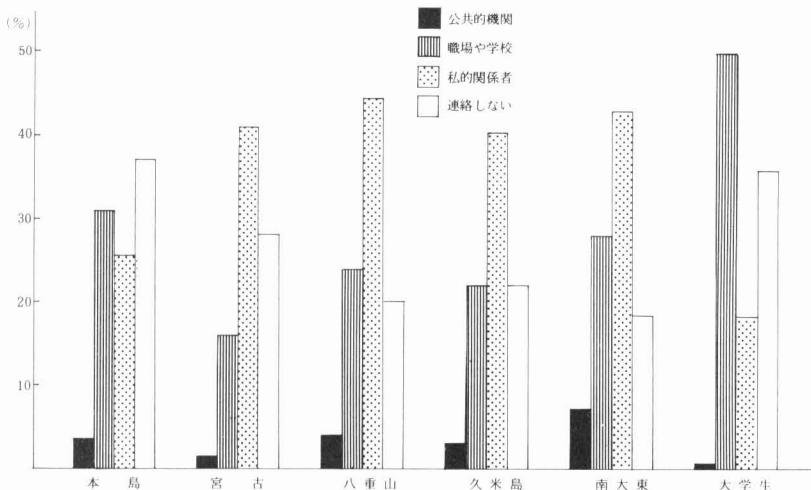


図7 地域別の伝達先の比較

7である。図7から、いずれの地域においても、「公共的機関への連絡」が少ない。また、本島以外の各離島地域において、伝達行動が主として「私的関係者」に向けられほとんど同一のパターンを示している。本島では、「何処へも連絡をとらない」、次に「職場や学校へ連絡する」反応が高く、一応都市型の伝達行動として示唆される。また、大学生の場合は、一般成人に比べ「職場や学校へ連絡をとる」反応が高く、これは彼等の社会的地位や役割から、了解できる結果である。「台風の時、あなたの所によそから何か連絡があるか」の設問に対する回答について、図7の要領で示したのが図8である。図8から、本島、宮古、大学生の反応パターンがほぼ類似している。しかし、本島と大学生は「私的関係者からの通報」に対する反応より、「何処からも連絡がない」への反応が目立って高い。それに対し、宮古においてはそれぞれの両方の反応にはそれほど大きな差は見られない。また、八重山、久米島、南大東の反応パターンがほぼ類似し、それぞれの地域で「私的関係者からの通報」が多いことを物語っている。図7、8から、本島に比べ各離島地域に

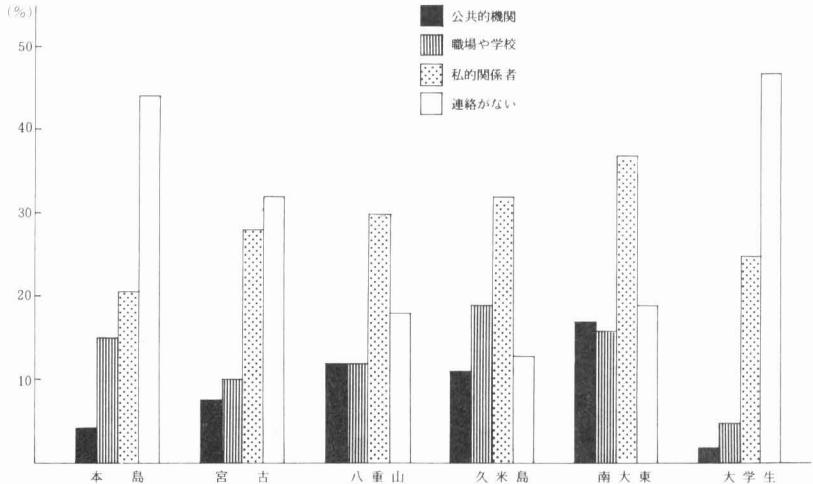


図8 地域別の伝達源の比較

においては台風時に私的関係者同士相互の伝達行動が頻繁であることが理解できる。本島の場合、台風時に特に何処かと相互連絡をとることが少なく、必要に応じ職場や学校、私的関係者へ連絡をとっていると考えられる。また、大学生の場合、自から学校等へ連絡をとるが、しかしながら先方からの連絡が非常に少ないという特徴がある。さらに興味あることは、図7と8において、それぞれの本島の公共的機関の反応率にほとんど差がないのに対して、離島の4地域においては、図8のそれぞれの公共的機関の反応率が図7の反応率の2倍以上になっていることである。このような結果は、本島の公共的機関に比べ各離島の公共的機関が台風情報の提供に積極的であることを示唆していると考えられる。

各家庭において、「日頃から台風に備えて用意すべき物」（項目15）と「台風来襲が確実になった時に再度点検・整備しておく物」（項目16）とを比較し、各地域及び大学生について示したのが図9から図14である。各地域、大学生において、日頃から備えてある物として、「懐中電灯」（90%～97%）、

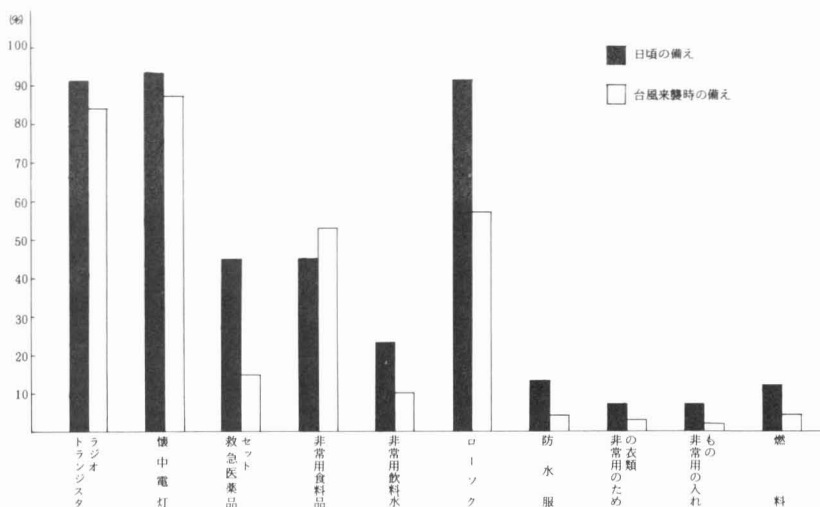


図9 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（本島）

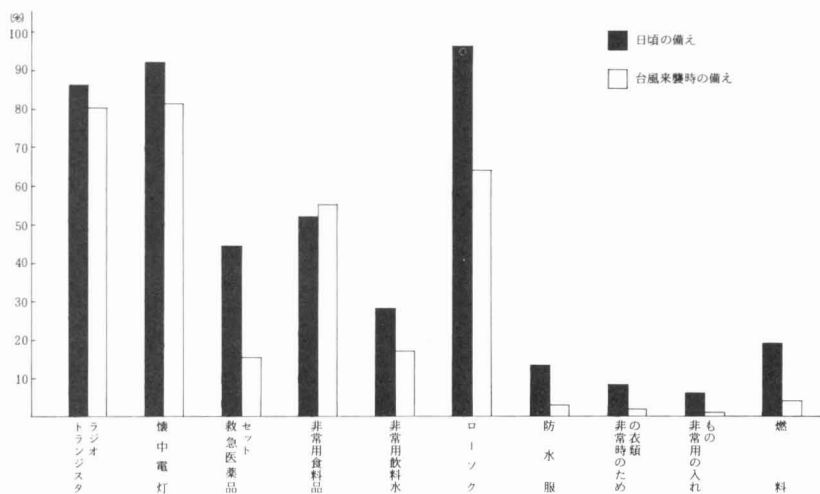


図10 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（宮古）

台風時の行動に関する比較研究（中村・東江・国吉・新里・大城・大橋・吉森・木下）

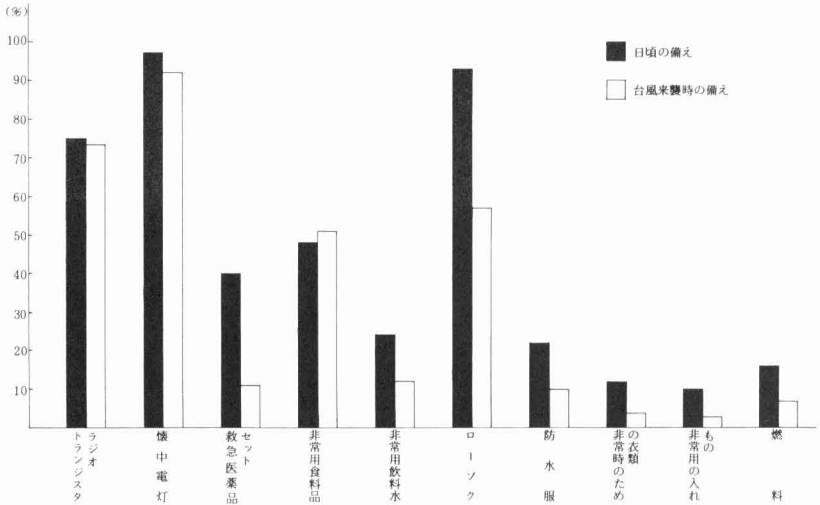


図11 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（八重山）

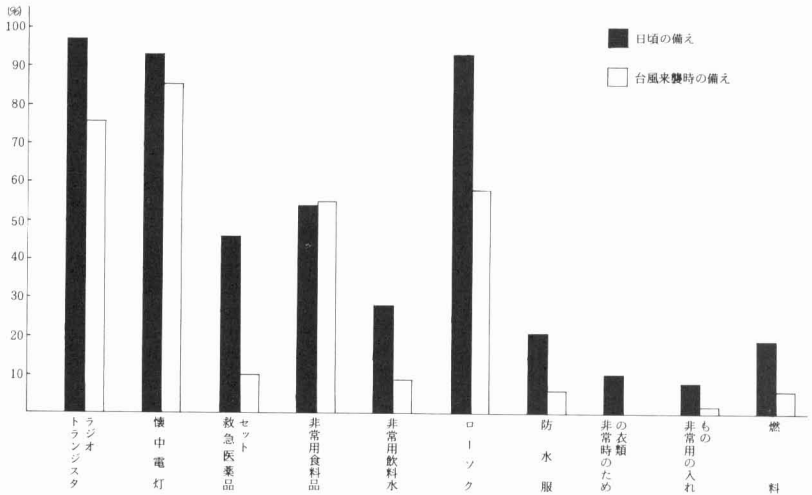


図12 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（久米島）

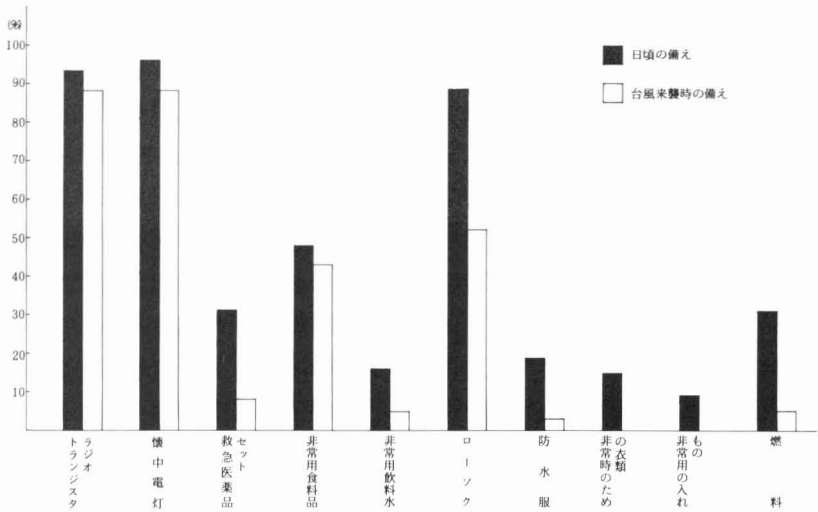


図13 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（南大東）

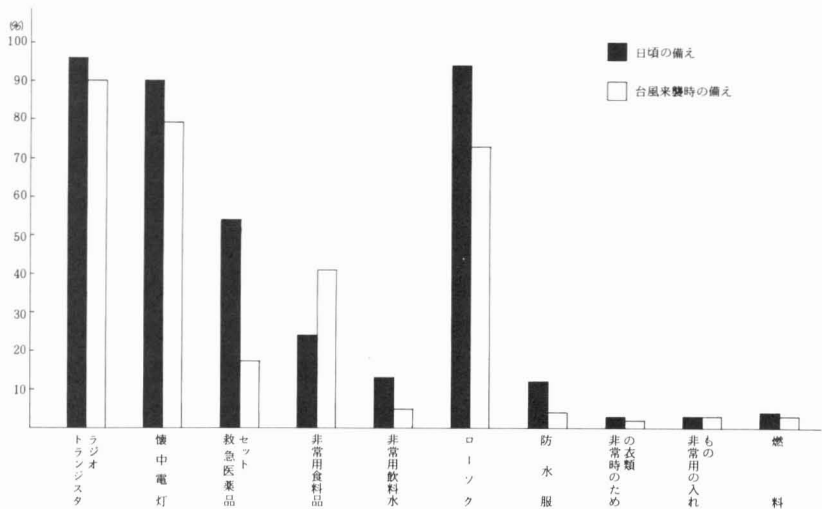


図14 台風に対する日頃の備えと来襲時の備えとの比較（大学生）

「ローソク」（88％～96％）、「トランジスターラジオ」（75％～97％）等が高率で選択され、順次「非常用食料品」、「救急医薬品セット」となっている。このような選択傾向は地域別、及び一般成人と大学生とにも差がなく類似している。また、南大東（31％）をはじめとし、各離島（16％～19％）は本島（12％）に比べ「燃料」の備えが若干高くなっている。「懐中電灯」、「ローソク」、「トランジスターラジオ」は、台風来襲時の備えとしても同様に高率で選択され、これらの品目が台風時に重大な機能を果していることが示唆される。また、南大東を除いた地域や大学生において、他の品目に比べ「非常用食料品」の備えが、日頃より台風来襲時に高く選択されているのは、台風時におけるこの品目の役割の効用を示唆するものである。この傾向が、一般成人より大学生に若干強くでているのは興味ある結果である。なお、「非常用飲料水」、「防水服」、「非常時のための衣類」などが、いずれの場合の備えにも上位に選択されなかったのは、台風時の対応行動が他の自然災害時の対応行動と異なることを示唆していると考えられる。

「台風来襲のニュースを聞いた時、どの台風対策をもっとも重視するか」の設問（項目17）に対して、本島では、「家屋、農作物、漁船など財産の保全」（1位選択が45％）の対策と「食料品の確保や停電にそなえる」（1位選択が41％）の対策が同程度に選択されているのに対して、他の離島地域においては、前者の対策の選択率（1位選択が、宮古で48％、八重山で59％、久米島で46％、南大東で64％）が、後者の対策の選択率（1位選択が、宮古で43％、八重山で26％、久米島で40％、南大東で21％）を上回っている。この傾向は、八重山地域と南大東に強く見られる。このように、本島に比べ離島地域において、台風対策として「家屋、農作物、漁船など財産の保全」が重視されることは十分に理解できる。大学生は、このような一般成人とは逆に「食料品の確保や停電にそなえる」（49％）対策を重視する傾向にある。

「各家庭の住居に関する台風対策」（項目18）として、本島や各離島地域ともに「雨戸の補強」の対策をもっとも重視している。以下、本島では「危

陰物の除去」、「窓ガラスの破損防止」の順で対策を重視するのに対して、宮古を除く他の離島地域においては、「窓ガラスの破損防止」、「屋根の補強」の順で対策を重視する傾向にある。また、本島では離島地域に比べ「樹木のささえ」の対策を重視している。このように、住居の台風対策の点で地域差が見られ、本島はより都市型の対応行動をとっていると考えられる。

「暴風雨で外に出られない時、台風対策の他にするもの」(項目19)として、本島、八重山、久米島では「テレビの視聴」を上位で選択しているのに対して、宮古と南大東では「家族の話し合いやゲーム」を上位で選択している。このような選択傾向は、離島におけるテレビの普及率とも関連していると思われる。いずれにしても、「読書」、「仕事」の選択率は低く、一般的に娯楽の行動を行ってすごしていると考えられる。また、大学生も「テレビの視聴」を上位で選択し、台風時の過ごし方の点では一般成人とほとんど差はない。しかしながら、「読書」の選択率が、一般成人に比べ若干高くなっている。

「これまで取られてきた台風対策の自己評価」(項目22)について、本島、宮古、八重山、南大東においては「満足な対策であった」の選択率(47%~57%)が「不十分であった」の選択率(24%~32%)を上回っており、これらの地域において過去の台風対策が十分であったことを物語っている。しかし、久米島では、「満足な対策」(34%)より「対策が不十分」の選択率(45%)が上回っており、台風対策の仕方の点で地域間にある程度の差があると考えられる。

「台風対策として今後、県や国へ要望したい事項」(項目23)として、本島では「建物の台風対策への補助」(32%)と「台風時の広報活動」(31%)がほぼ同程度になっているのに対して、すべての離島地域においては「台風時の広報活動」(19%~32%)より「建物の台風対策への補助」(33%~46%)の要望が高い。特に南大東や八重山において、この傾向は強い。このような結果は、項目17において、離島地域の台風対策として、「家屋、農作物、漁船など財産の保全」が重視されている点を考慮すると、十分に

了解できる。また、大学生は「建物の台風対策への補助」を求めている点では、一般成人と相違はないが、彼等が一般成人に比べ「避難救急体制の整備」を高率で要望している点では異なっている。

IV 要 約

本稿は、台風の認知および台風に対する行動を解明するために実施された質問紙調査の結果に対して、基礎的分析を施したものである。既に発表された報告^(7, 8, 9, 10)と一環をなすものである。対象は学生を含む沖縄県内在住成人男女 1,054 人であり、調査は 1980 年 10 月～12 月に実施された。主な結果はつぎの通りであった。

- 1) 天気予報や台風情報への関心は全般的に強いが、とくに後者へのそれは強い。また一般成人の方が大学生よりも関心は強く、地域別比較では、久米島や南大東地域などの離島では比較的高い関心を示している。
- 2) 台風関係の情報を入手する場合、全体としてマス・メディアへの依存がかなり強い。そして、南大東地域を除き、他の地域ではテレビ、ラジオ、新聞の順に依存度のランクづけがなされているが、台風の接近通過に伴い、地域によってはそれらの順位が時系列的に変化している。南大東地域ではラジオを首位に、次いで電話サービスをあげている。また、通常は、一般成人がテレビ志向、大学生がテレビ、ラジオ併用の傾向がみられる。
- 3) 台風情報でとくに関心をもたれているのは台風の強度や規模であり、とくに離島地域でその傾向が強い。
- 4) 台風情報の報道の仕方については全般的に現行の扱い方を積極的に評価しているが、南大東地域では相対的に低い評価となっている。また、大学生は一般成人ほど高い評価をしていない。
- 5) 台風接近のニュースに対する県民の不安度は、とても不安と不安が軽度の不安や不安でない者よりは圧倒的に多かった。地域別には久米島が最も不安が高く、次に他の離島、そして最も低かったのは本島であった。大学生は不安でない方が多く、一般成人と差がみられた。

- 6) 台風中の不安反応も接近前とほぼ同じ傾向を示した。地域間の差も、大学生の反応も台風前のそれとほとんど同じであった。
- 7) 暴風中の自然や環境破壊の恐れについては落下物のおそれが最も多く、次に建物等の倒壊のおそれが多かった。地域差、大学生と一般成人間の差はみられなかった。沖縄県では山くずれなどの自然破壊に伴う災害のおそれはほとんど問題にならなかった。
- 8) 台風後の住・生活環境の被害に対する心配では、停電や断水が最も強く、諸物価の値上げがこれについだ。これらに対しては地域差はほとんどなかった。そして大学生との間にも差はみられなかった。一方、収穫高の低下については、全体的にあまり気になる材料ではなかったが、南大東が最も懸念する材料の一つに上げていた。
- 9) 台風時の伝達行動として、本島の場合、各離島地域に比べ、情報を自ら何処へも連絡しない傾向があり、また、何処からも連絡がこないという傾向が見られる。一方、各離島地域は、親戚や知人及び隣近所の家と相互に連絡をとりあう傾向が強い。また、各離島地域は本島に比べ、公共的機関から頻繁に連絡を受けている。大学生は自ら学校等へ連絡をとるが、しかし先方からの連絡は非常に少ないという特徴がある。
- 10) 日頃から台風に備えて用意すべき物として、懐中電灯、ローソク、トランジスタラジオが挙げられる。この選択傾向に地域差はなく、また一般成人と大学生との間にも差はない。
- 11) 本島に比べ離島地域は、家屋、農作物、漁船など財産の保全を重視する台風対策を行っている。大学生は一般成人に比べ、食料品の確保や停電にそなえる対策を重視している。
- 12) 過去の台風対策の自己評価について、本島、宮古、八重山、南大東では満足な対策であったと評価しているが、久米島では対策が不十分であったと評価し、台風対策の評価で地域間に若干差が見られる。
- 13) 台風対策として、県や国へ要望したい事項として、特に各離島地域で建物の台風対策への補助を求めている。南大東や八重山においてこの傾向は強い。

参考文献

- (1) 沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部（編） 『沖縄の風水害』 昭和57年1月 p. 6.
- (2) 沖縄県（編） 『沖縄県災害誌』 沖縄県総務部消防防災課（発行） 昭和52年2月 p. 105.
- (3) 前掲書 (1)、p. 5.
- (4) 沖縄県企画調整室（編） 『おきなわ』～昭和56年度県勢あらまし～ 昭和57年3月発行 p. 77.
- (5) 沖縄気象災害防止協議会（編） 『^{かじふち}暴風』 第2号 昭和49年9月 p. 1.
- (6) 前掲書 p. 8.
- (7) 東江平之、他「台風時の行動に関する比較研究」 ①～④ 『九州心理学会第41回大会（昭和55年11月8日）発表論文集』 pp. 46～49.
- (8) 東江平之、他「台風時の行動に関する比較研究」 (5)、(6) 沖縄心理学会第4回大会（昭和56年3月）発表（『沖縄心理学研究』4号pp. 16～22）.
- (9) 東江平之、他「台風時の行動に関する比較研究」 (7)、(8) 『日本心理学会第45回大会（1981年9月20日）発表論文集』 pp. 779～780.
- (10) 東江平之、他「台風時の行動に関する比較研究」 (9)、(10) 沖縄心理学会第5回大会（昭和57年2月）発表（『沖縄心理学研究』5号印刷中）

〔付録〕 調査用紙と応答分布（％）

	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
項目 1. あなたはふだんからラジオ やテレビ、新聞等の天気予 報に気をつけておられます か。							
1 かなり気をつけてい る	31	28	34	36	43	2	29
2 ある程度気をつけて いる	52	62	57	54	45	52	54
3 あまり気をつけてい ない	13	10	9	6	8	37	13
4 ほとんど気をつけて いない	4	1	1	3	2	8	3
5 その他	0	0	0	0	3	1	0
項目 2. あなたは、台風に関する情 報にどのくらい関心があり ますか。							
1 かなり関心がある	60	57	69	76	69	23	59
2 やや関心がある	34	35	28	15	25	62	34
3 あまり関心がない	6	5	2	5	5	15	6
4 まったく関心がない	1	1	1	0	2	0	1
5 わからない	0	2	1	3	0	0	1

項目 3. 新聞やラジオ、テレビで流される台風情報は、あなたにとってどのくらい必要ですか。	一 般 成 人					大 学 生	計	
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 島			
1 絶対に欠かせない	56	46	60	50	60	25	52	
2 必要である	35	42	34	46	30	54	38	
3 ある程度必要である	7	11	5	2	5	21	8	
4 なくても困らない	1	1	1	0	2	0	1	
5 わからない	0	2	1	2	3	0	1	
項目 4. 台風情報を知るのに、あなたがよく利用するのは次の中のどれですか。（ ）の中に、よく利用する順に番号を記入して下さい。								
1 () 新聞	1位	11	2	2	2	2	9	6
	2位	24	6	14	5	16	14	16
	3位	43	42	31	39	39	51	41
	4位	8	31	27	31	10	18	18
	5位	0	1	2	5	0	0	1
2 () ラジオ	1位	31	26	18	34	78	42	32
	2位	32	48	35	37	15	32	35
	3位	24	14	23	16	6	19	20
	4位	3	2	4	3	0	3	3
	5位	0	0	1	0	0	0	0
3 () テレビ	1位	53	62	72	54	2	48	54
	2位	30	27	20	39	9	40	28
	3位	10	4	2	0	13	8	7
	4位	1	1	1	2	0	0	3
	5位	0	0	0	0	3	0	0
4 () 電話サービス (177番)	1位	3	6	5	8	24	2	5
	2位	3	7	13	8	42	6	8
	3位	8	22	21	28	9	14	15
	4位	41	43	31	36	13	52	39
	5位	3	2	4	2	0	4	3

項目 5. 暴風圏内に入った時、あなたは次の中で一番何をたよりにしますか。	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 テレビの報道	42	31	47	30	0	36	37
2 ラジオの報道	40	52	20	46	69	61	43
3 新聞の報道	1	0	0	0	0	1	1
4 市町村役場や警察署からの連絡	1	1	11	0	2	2	3
5 隣近所の人の動き	1	3	1	3	2	0	1
6 電話サービス（117番）	3	5	5	5	10	2	4
7 その他	0	0	1	0	0	0	0
項目 6. あなたの家庭では次のどれを主ながかりとして台風対策をしますか。							
1 テレビやラジオの台風情報	89	85	91	93	84	84	88
2 隣近所の人の動き	1	4	3	2	8	2	3
3 その時の風雨の状態	15	13	8	9	15	13	13
4 その他	0	0	2	2	2	0	1
5 わからない	0	0	0	0	0	2	0

項目 7. 「台風は、もうかならず来る」と感じるのは何によってですか。（1つ選ぶ）	一般成人					大学生	計
	本島	宮古	八重山	久米島	南大東		
1 海鳴り	4	6	14	13	8	0	7
2 空模様（朝やけ、夕やけなど）	34	35	32	27	42	27	33
3 虫や小鳥の動き	1	1	0	0	0	0	1
4 風の吹きぐあい	44	35	33	34	40	60	41
5 雲ゆき	8	13	9	10	6	5	9
6 電線のうなり	1	3	0	3	0	0	1
7 樹木のゆれ	3	4	3	2	2	8	4
8 その他	2	1	2	2	0	1	1

項目 8. 台風情報に関する新聞やテレビ、ラジオの報道のしかたについて、あなたはどのように思いますか。（1つ選ぶ）	一般成人					大学生	計
	本島	宮古	八重山	久米島	南大東		
1 必要な情報がふくまれているがわかりにくい	17	21	14	16	12	30	18
2 不必要なものが多くてあまり役に立たない	2	1	8	0	2	3	2
3 必要な情報をわかり易く伝えているので役に立っている	76	73	77	70	73	59	73
4 とくに関心はない	1	2	2	8	3	5	2
5 わからない	2	2	1	3	3	3	2
6 その他	0	1	1	0	2	1	1

項目9. 台風に関するニュースの中であなたがもっとも知りたいと思うことはどんなことですか。(1つ選ぶ)	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 台風の接近の度合について	37	30	35	48	21	44	36
2 台風の強さや大きさについて(風速、気圧、範囲など)	57	68	62	51	72	51	60
3 雨 量	3	1	0	2	5	2	2
4 その他	1	0	0	0	0	4	1

項目10. テレビや新聞で使われている台風の進路予想図は、あなたにとって役立っていますか。	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 非常に役立っている	36	33	49	49	22	8	35
2 役立っている	42	44	35	42	34	41	41
3 ある程度役立っている	17	18	12	9	16	41	18
4 役立っていない	1	1	1	0	18	6	3
5 わからない	2	2	2	0	8	5	2

項目11. 台風のと き、あなたから どこへ通報する ことがありますか。 (いくつ選んでも よい)	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 市町村役場へ連絡をとる	3	2	7	5	9	1	4
2 区長や自治会長などへ連絡をとる	4	1	0	3	8	0	3
3 消防署へ連絡をとる	5	3	5	3	3	1	4
4 警察へ連絡をとる	2	1	4	2	6	0	2
5 親せきや知人へ連絡をとる	33	49	53	54	45	28	41
6 隣近所の家へ連絡をとる	18	33	36	27	42	9	25
7 職場や学校へ連絡をする	31	16	24	22	28	50	28
8 その他	1	3	2	0	2	1	2
9 どこへも連絡をとらない	37	28	20	22	18	36	30

項目12. 台風の時、あなたの所によ そから何か連絡があります か。(ありましたか) (い くつ選んでもよい)	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 市町村役場から連絡 がある	5	12	13	10	24	2	9
2 区長や自治会長から 連絡がある	3	1	0	3	30	0	3
3 消防署から連絡があ る	7	15	24	22	2	3	12
4 警察から連絡がくる	1	3	12	10	12	1	5
5 親せきや知人から連 絡がある	26	33	35	39	43	41	32
6 隣近所から連絡があ る	15	23	24	25	31	9	19
7 職場や学校から連絡 がある	15	10	12	19	16	5	13
8 その他	1	3	3	0	2	2	2
9 どこからも連絡がな い	44	32	18	13	19	47	34
項目13. 台風接近のニュースを聞い たとき、あなたはどんな気 持ちになりますか。(1つ 選ぶ)							
1 とても不安になる	21	30	36	48	37	0	26
2 不安になる	40	34	40	36	42	13	36
3 やや不安になる	29	29	20	13	13	33	26
4 不安にはならない	10	5	4	2	6	54	12

台風時の行動に関する比較研究（中村・東江・国吉・新里・大城・大橋・吉森・木下）

項目14. 暴風が吹きあれている最中、 あなたはどんな気持ちになりますか。（1つ選ぶ）	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 とても恐い	17	27	25	33	40	3	21
2 恐い	39	38	45	45	30	18	37
3 あまり恐くない	37	32	26	19	21	49	33
4 まったく恐くない	7	3	2	2	6	30	7
項目15. あなたの家庭では、日頃、 台風に備えて次のようなものを用意してありますか。 あるものにはいくつでも○をつけて下さい。							
1 トランジスタラジオ	91	86	75	97	93	96	88
オ							
2 懐中電灯	93	92	97	93	96	90	93
3 救急医薬品セット	45	44	40	46	31	54	44
4 非常用食料品	45	52	48	54	48	24	46
5 非常用飲料水	23	28	24	28	16	13	23
6 ローソク	91	96	93	93	88	94	92
7 防水服	13	13	22	21	19	12	16
8 非常時のための下着 やその他の衣類	7	8	12	10	15	3	8
9 非常用の入れ物（袋 など）	7	6	10	8	9	3	7
10 燃料（石油、ガス）	12	19	16	19	31	4	15
11 その他	1	1	2	0	0	0	1

項目16. かなり強い台風が24時間以内に来襲することが確実になった場合、次のうちあなたの家でまっ先にそろえておくもの、または使用できるように点検、整備しておくものは何ですか。（3つ選ぶ）

	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 トランジスタラジオ	84	80	73	76	88	90	82
オ							
2 懐中電灯	87	81	92	85	88	79	86
3 救急医薬品セット	15	15	11	10	8	17	14
4 非常用食料品	53	55	51	55	43	41	51
5 非常用飲料水	10	17	12	9	5	5	11
6 ローソク	57	64	57	58	52	73	60
7 防水服	4	3	10	6	3	4	5
8 非常時のための下着 やその他の衣類	3	2	4	0	0	2	3
9 非常用の入れ物（袋 など）	2	1	3	2	0	3	2
10 燃料（石油、ガス）	4	4	7	6	5	3	5
11 その他	1	0	2	0	0	3	1

項目17. 台風来襲のニュースを聞いた時、あなたは何をもっとも重視しますか。重要と思う順に番号を（ ）の中に記入して下さい。

1) 家屋、農作物、漁船その他の施設、設備など、財産の保全

	一般成人					大学生	計
	本島	宮古	八重山	久米島	南大東		
1 位	45	48	59	46	64	41	49
2 位	30	33	21	31	12	36	28
3 位	8	7	8	13	8	11	9
4 位	8	7	7	6	8	7	7

2) 食料品の確保や停電にそなえるなど

1 位	41	43	26	40	21	49	38
2 位	36	38	38	45	57	42	39
3 位	15	11	19	6	6	8	13
4 位	3	2	7	3	6	1	3

3) 職場の台風対策

1 位	11	5	11	10	3	1	8
2 位	16	15	16	8	10	4	14
3 位	30	30	26	28	33	31	29
4 位	28	40	31	45	31	57	35

項目17.

4) 地域、隣近所の台風対策

	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 位	2	1	2	3	6	9	3
2 位	10	7	14	9	9	12	10
3 位	30	42	32	42	33	44	35
4 位	41	40	37	36	31	28	38

項目18. かなり強い台風の来襲が確
実になった場合、次の対策
のうちあなたの家でもっと
も重視するものに○をつけ
てください。(1つ選ぶ)

1 屋根の補強	9	4	13	15	16	5	9
2 雨戸の補強	34	55	57	37	45	28	42
3 窓ガラスの破損防止	18	18	13	22	18	13	17
4 看板などの取りはず しまたは固定	6	2	1	5	2	5	4
5 危険物の除去	19	10	6	12	8	29	15
6 樹木のささえ	7	1	1	0	2	9	4
7 家具や電気製品の移 動	1	2	2	0	2	3	1
8 その他	3	1	1	0	0	1	2

項目19. 暴風雨で外に出られない時、 あなたは台風対策の他にど んなことをしますか。（1 つ選ぶ）	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 テレビの視聴	51	30	47	49	27	52	45
2 家族の話し合いやゲ ーム	18	39	28	13	31	10	24
3 骨休み	16	15	15	21	25	19	17
4 飲酒など	0	1	1	0	0	1	0
5 読 書	6	8	3	0	3	11	6
6 仕 事	3	4	3	2	3	0	3
7 その他	2	0	1	6	3	4	2
項目20. あなたの居住地域で、台風 時に特に心配になることが ありますか。（いくつ選ん でもよい）							
1 護岸の欠壊や高潮の おそれ	11	18	19	28	15	9	15
2 山くずれやがけくず れのおそれ	6	1	3	6	3	13	5
3 川の氾濫や橋の欠壊 のおそれ	5	2	2	6	3	10	5
4 落下物や飛来物のお それ	43	48	49	42	37	46	45
5 浸水のおそれ	12	8	10	15	9	10	11
6 建物等の倒壊のおそ れ	22	36	42	28	52	17	30
7 その他	8	7	5	9	12	17	9

項目21. 台風の後で、もっとも気になることは何ですか。気になる順に()に番号を記入して下さい。

1. 停電や断水

	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 位	60	78	73	67	52	62	66
2 位	17	11	12	13	15	21	15
3 位	8	2	4	8	6	8	6
4 位	4	2	2	2	6	5	3
5 位	2	1	1	0	5	0	1
6 位	0	0	0	0	0	0	0

2. 建材の値上げ

1 位	2	2	1	2	3	1	2
2 位	4	2	7	9	10	2	5
3 位	12	17	11	8	22	8	13
4 位	17	20	19	13	13	14	17
5 位	42	41	39	39	21	63	42
6 位	0	1	1	0	0	1	1

3. 諸物価の値上げ

1 位	18	4	6	9	6	16	12
2 位	35	32	29	28	25	37	33
3 位	22	25	27	24	22	23	24
4 位	12	20	10	13	15	16	16
5 位	2	5	3	6	6	5	3
6 位	0	1	0	0	0	1	0

項目21. 4. 収穫高の低下

	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 位	9	11	11	12	21	10	11
2 位	14	24	21	18	18	13	17
3 位	21	21	18	21	12	38	21
4 位	23	16	21	18	15	24	21
5 位	13	14	11	8	12	6	12
6 位	0	1	0	2	3	0	0
5. 衛生状況の悪化							
1 位	7	2	2	3	9	9	5
2 位	20	21	18	19	12	22	19
3 位	22	21	21	18	9	17	20
4 位	21	24	16	25	16	31	21
5 位	14	19	21	15	22	14	17
6 位	0	0	1	0	0	1	0
6. そ の 他							
1 位	1	0	1	0	0	1	0
2 位	0	1	0	0	0	0	0
3 位	0	1	0	0	0	0	0
4 位	0	1	1	0	2	1	1
5 位	0	1	1	2	2	1	1
6 位	39	51	52	67	21	14	42

項目22. あなたの家で、これまで取 られてきた台風対策につい てあなたはどのように思いますか。 (1つ選ぶ)	一 般 成 人					大 学 生	計
	本 島	宮 古	八 重 山	久 米 島	南 大 東		
1 満足な対策であった	47	49	52	34	57	53	49
2 対策が不十分であっ た	30	32	31	45	24	17	30
3 対策が過剰であった	6	4	5	6	0	2	4
4 わからない	14	14	7	6	12	28	13
項目23. 台風対策として県や国に特 に力を入れてもらいたいと 思うことは何ですか。 (1つ選ぶ)							
1 建物の台風対策への 補助	32	33	43	33	46	35	35
2 台風対策や心構えに 関する指導	18	23	13	21	15	8	17
3 台風時の広報活動	31	29	32	24	19	30	30
4 避難救急体制の整備	10	9	6	6	9	25	10
5 その他	2	1	0	2	0	1	1